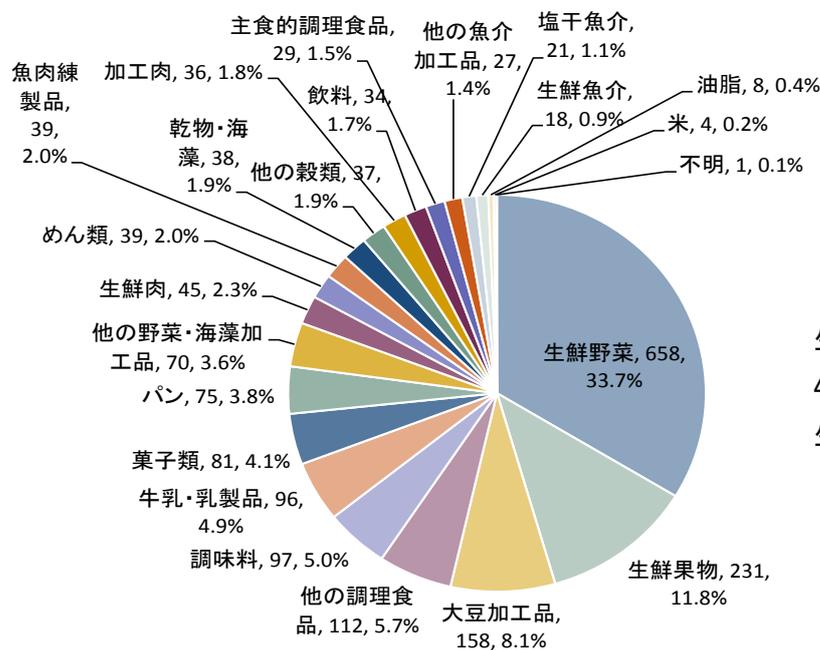


家庭において廃棄された食品の実態調査について（神戸市調査より）

平成 28 年度 神戸市「食品ロス調査（冬季）」結果

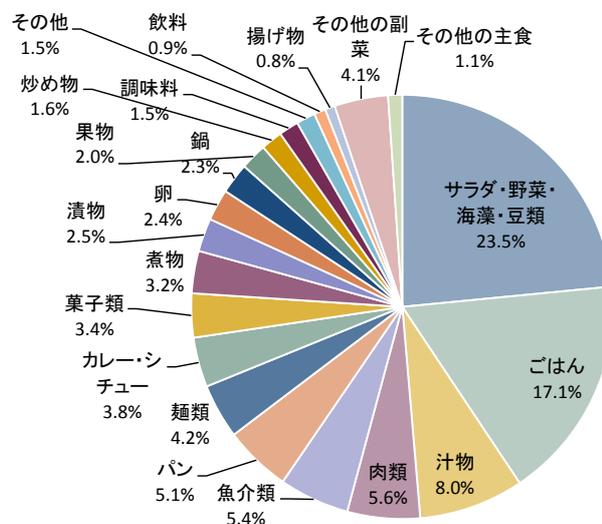
- 参加者：302 世帯
- 期 間：平成 28 年 11 月 28 日～12 月 25 日（4 週間）
- 方 法：期間中に家庭で手付かず食品と食べ残しを廃棄するたびに、廃棄した食品の種類や量、廃棄理由、保存方法などを日記形式で記録

1 廃棄された手つかず食品



生鮮野菜と生鮮果物とで 45.5%を占めており、生鮮品が半数近くを占める。

2 食べ残しにより廃棄された食品



食べ残しは野菜類のほか、ごはんが多い。

本調査結果は神戸市の場合であり、東京都については、今年度以降に実態調査を実施していく予定です。

3 行動メニューの素案

	発生要因	対象	行動
手 付 か ず 食 品	冷蔵庫等の整理・在庫確認ができない	共通	冷蔵庫等の整理・在庫確認ができる工夫を取り入れる（市民）
	期限をこまめに確認していない	特に牛乳・乳製品、大豆加工品、調味料等共通	期限をこまめに確認できる工夫を取り入れる（市民）
	適切な保存方法を実践していない	特に生鮮野菜	野菜が長持ちする保存方法を取り入れる（市民）
	複数のレシピ、残った食材を使い切るレシピを知らない	特に生鮮野菜、加工肉	レシピのレパートリーを増やして余った食材を使い切る（市民）
	安いために衝動的に購入してしまう	特に生鮮肉、めん類、魚肉練製品	計画的な買い物で衝動買いを防ぐ（市民） 特売品にレシピをつける（事業者）
	量が多い、好みでないもらい物を消費しきれない	特に生鮮果物、菓子類	フードドライブに協力する（市民） フードドライブ窓口を設ける（事業者）
	販売量が多い	生鮮野菜、生鮮肉、加工肉、大豆加工品等	少量販売を導入する（事業者）
食 べ 残 し	食べ切れる量よりも作りすぎてしまう	単身世帯（特に単身高齢世帯）	単身世帯は作り過ぎない（市民）
	子どもが食べ残す	若い親と子どもの世帯	子育て世代は子どもが食べ切れる量をつくる（市民）

神戸市：平成28年度実施 食品ロス調査（冬季）等 結果概要より
URL：<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2017/05/20170519190402.html>